

⑤「何事もプラスに変える思考法」 マネージャー 木戸 貴也（中小企業診断士）

何事も楽しむスタンスで物事を好転させ、逆境を乗り越えていくことについて、先月のニュースレターに記載しましたが、何事でも楽しむ前にもう1ステップ大切なことがあります。それは見たくない現実を直視しなければならないということです。本人の解釈ではなく、起こっている事実を客観視しなければなりません。人は自分の見たいこと、知りたい情報を優先して認識し、都合のいいように解釈するものです。

自分の小さな世界、狭い視野、限られた価値観の中で物事を捉えていては、事実を認識することができず、物事をプラスに変えることができません。嫌なこと、見たくないこと、異なる意見などもまずは受け入れ、見たくない現実を直視することで、物事を好転させ、さらなる高みを目指していきましょう！



⑥「代表から私、私からインターン生へ」 経理・総務 松野 あやか

「守破離」という言葉は、代表の長尾と2年前程に、打ち合わせをしている際に学んだ言葉でした。本来、「守破離」という言葉は、武術・芸術、茶道・華道などの世界で、その道を究める修行の過程で重要な事を伝える際に使う言葉です。ビジネスにおいては、

「守」上司・先輩を真似る。仕事の基本・基礎を『守る』、学んだこと（基本・基礎）を実践する段階。

「破」独自に工夫する。仕事の基礎を少しずつ『破る』、試行錯誤をしながら自分流のスタイルに挑戦段階。

「離」基本を踏まえたオリジナルに進化する。仕事の基礎を変革して『離れる』、上司のもとを離れ、進化する段階。

インターン生には、仕事を進める際に、最初から自分のやり方や自分色を出すのではなく、代表や上司、先輩から教わったことをまずは、守り、実践することで、仕事をいち早く習得することができるとお伝えしました。基本をおろそかにしては、強引に次の段階に進んだとしても上手くいかず、言い方を変えれば、この最初の段階をきちんとこなせる人こそ、ビジネスの場で活躍できる人だと思います。代表から学んだことは、今後も自分だけではなく、後輩やインターン生にも伝え、業務をただ教えるのではなく、代表がいなくとも人材育成や社風の醸成に繋げていけるよう、仕事に取り組んでいきたいと思っています。



⑦「インターン生とともに過ごして」 ビジネスアナリスト 伊藤 侑加

インターン生が入社し、早くも4か月が経過しました。当社では、長期インターンとしての採用を行っており、社員の業務をサポートして貰っています。インターン生へ業務を依頼する際に感じることは、「相手に正しく伝えること」の難しさです。私にとっては当たり前のこと（穴あけパンチの開け方、ファイリングの仕方など）が、初めての経験である人も多く、私の伝え方が悪いせいで、複数回のやり直しが発生するなど、依頼した本人、サポートしてくれた人、両方にとってBADな状態になってしまうこともありました。

現在は、「①相手に伝えたいことを明確にする→②相手に伝わるように整理する→③相手に伝える→④相手が受け取る→⑤相手が理解してから作業を進めてもらう」というステップを踏みながら業務を依頼しています。最初は時間がかかりますが、一度理解をするととても早く業務が終わること多く、その速さに驚かされることも多々あります。（さすがPC、スマホが当たり前の世代です。）また、依頼した業務が完了した際には、感謝の気持ちを伝えることを大切にしています。感謝の気持ちは言葉で伝えることで初めて相手に伝わるものだと思います。インターン生が携わっている業務1つ1つは小さなことかもしれないけれど、それらのパーツが揃わなければ、先に進めないものもあるので、今後も協力をしながら、一緒に取り組んでいきたいと思っています。



⑧「高校球児と社会人」 ビジネスアナリスト 杉本 貴弘（中小企業診断士）



今年も高校野球が連日TVで放送される季節がやってきました。私の周りでは春のセンバツや夏の甲子園の時期になると、高校時代の友人達とのグループラインは「今年はあの高校が強いらしい」という情報や母校の試合の実況で騒がしくなります。今年は和歌山県の強豪校である智辯和歌山が地区予選一回戦で敗退するなど、各地で波乱を呼んでおります。以前は甲子園球場にも足を運んでおまして、一昔前に一世を風靡したハンカチ王子こと斎藤祐樹投手とマー君こと田中将大投手の早稲田対駒大苫小牧の伝説の決勝再試合も現地で観戦しておりました。球児たちに限らず部活動に勤しんでいる学生は多いですが、社会人になると、競技者でもなければ大会に向けて熱心に汗を流すということも殆どなくなります。その分我々は、仕事で汗を流し、時には涙するなど、本気で取り組まないといけなさと、白球を追う球児のひたむきな姿を見て改めて思うのでした。



株式会社フラッグシップ経営 Facebook ページ
👍 いいね! お待ちしております。



株式会社フラッグシップ経営 Twitter
@flagship_keiei にて随時情報発信中!

⑤ 「追い込まれてはじめて進化する」 ビジネスアナリスト 橋本 大治



おかげさまでたくさんの事業者様をご支援させていただいており、アポイントや業務でかなり忙しくさせていただいております。最近ではタスク管理や業務の進め方が1年前と比較して大きく変わっており、自分のスタイルが確立してきたように感じます。

これは業務が忙しくなる中で自然に改善の必要性を感じ、試行錯誤しながら今のスタイルになりました。常々、生産性の向上は考えておりますが、振り返ってみると追い込まれて初めて真に改善が進んできたのではないかと感じます。やはり、キャパを超えて追い込まれることで人は進化出来るのかもしれませんが、日に日に業務が増えていきますが成長の機会と捉え、ますます自己研鑽に励んで行こうと思います。

余談ですが、橋本は to do 管理に連絡帳を使用しており、タスクを一言でまとめられ、一覧化出来る点等が非常に重宝しております。



⑥ 「神は細部に宿る」 ビジネスアナリスト 秋定 皇輝



「神は細部に宿る」よく耳にするフレーズかと思います。また、弊社が掲げる8つの想いの一つに「細部のこだわりが最終的に決定的な差別化要因になる。」というものがございます。私自身、神は細部に宿るという言葉が好きで、一見「それ大事？」と思われるようなことを私生活でも行ってきました。例えば靴磨きやアイロンがけ等の身だしなみ。身だしなみを整えることは大事ですが、外出前に必ずアイロンをかけシワ一つない状態にする、正しいサイズを身に纏うなど電車の中などを見渡すと出来ていない人も多くいるように感じます。

最近上記事項を徹底していることもあってか、「ビシッとしていていいね」という言葉をいただくことも増えてきました。すぐに実行できる細かいことで、他者よりも抜きに出れることを考えると、疎かにしてはならない大事なことだと改めて感じました。業務に関しても、見ている人は見ているという気持ちで、引き続き細部にも拘って進めていきたいなと思います。

⑦ 「やり方は重要」 ビジネスアナリスト 日野 慎太郎



皆さん、小さい頃、自転車の練習に苦労された記憶はありますか。私も、小さい頃、父親と一緒に、何度も倒れながら練習した苦い思い出があるのですが、私の2人の子供は、特に練習をしていないにも関わらず3歳になる頃には自転車を乗りこなしていました。これには明確な理由がありまして、2歳から「ストライダー」という自転車と違ってペダルがなく、自分の足で地面を蹴って進む子供用の乗り物に乗っていたからです。恐怖心なく遊び感覚で乗れる為、自然とバランス感覚が身に付き、最終的には自転車にも難なく乗れるようになりました。昔はとても苦労していた自転車の練習も、やり方を変えるだけで、苦労せず、しかも、これまでよりも早く自転車に乗れるようになり、「やり方」というのは非常に重要であると改めて実感しました。仕事、勉強、趣味など日常生活の中でも常に「もっと良いやり方はないか？」を考えて、過ごしていきたいと思います。

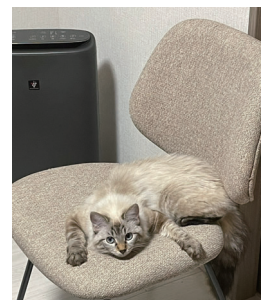


⑧ 「自己紹介」 ビジネスアナリスト 古川 悠樹

7月より入社いたしました古川 悠樹です。これまでの経歴としては鉄道用受変電設備を扱う専門商社、半導体・電子部品を扱う電機メーカーで営業を行ってまいりました。

モノを売る仕事から、より経営の根幹に携わり様々な課題解決を行いたいと思い、経営コンサルタントになることを決意いたしました。現場に寄り添うことを第一に念頭に置き、精進して参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

生年月日：1993年5月24日、京都府出身、趣味：サッカー観戦、ゴルフ、海外旅行、愛猫と遊ぶ



発行元：株式会社フラッグシップ経営 経営革新等認定支援機関

大阪本社：〒541-0043 大阪市中央区高麗橋3丁目2-7 ORIX 高麗橋ビル5階

和歌山支店：〒640-8392 和歌山県和歌山市中之島1518 中之島801ビル12階

TEL：0120-34-8776

FAX：06-7635-8214

MAIL：info@flagship-keiei.co.jp

URL：www.flagship-keiei.co.jp



コンさる君の

今日も視界良好 代表編

➤ 「充電完了しました」 代表取締役 長尾 康行（中小企業診断士）

皆さん、こんにちは。フラッグシップ経営代表、中小企業診断士の長尾です。ようやく、心を充電してきました！コロナ過の3年間は旅行は0回、外食もほとんど行かず仕事ばかりして、燃え尽き症候群のような感じになっていたのですが、7月7日～9日に韓国へ、7月21日～23日は香港・マカオへ旅行に行ってきました。両方ともお客様との旅行でしたが、仕事の話はほとんどなく、心の底から楽しむことができました。韓国では明洞を散策し、買い物や食事を楽しみました。私だけ夜中にチームから抜けて、一人でカジノに行き大勝することができました！この2泊3日の旅行での合計睡眠時間は4時間程度とタフな旅でしたが3年ぶりの海外旅行ということもあって満喫することができました。香港・マカオ旅は私がいつも宿泊するパリジャンというホテルに宿泊し、ホテル内のカジノしか行ってないと言っても過言ではない旅でした。こちらも爆笑連発の旅で、久しぶりにお腹の底から笑った感じがしました。

私自身、普段は仕事帰りにお酒を飲んだり、遊びに行ったりは全くなく家と職場の往復のみで平時はほぼ全く息抜きをすることはなく、大型連休や外国に行ったときに寝ずに遊ぶという方が性に合っています。しかし、この3年間は旅行に行くことができず、事業規模も急激に大きくなってきて仕事に没頭していたのですが、心身が限界まで疲弊していたことが外国に行ったことでよく分かりました。仕事は大好きですが、弊社のような小さな会社でも経営者としてのプレッシャーは常時感じていますし、事業規模の拡大とともに責任も増えるばかりです。極端に追い込んでしまう癖がありますが、年齢もありますので、うまく、息抜きをしながらバランスをとって仕事をしていこうと改めて思いました。2つの旅行とも金土日のスケジュールで行ったため、金曜日は留守番をしてくれた社員の皆さんに感謝です。



代表取締役 長尾 康行



お客様と弊社の若手社員と韓国に行ってきました！



今度は別のお客様と香港・マカオに行ってきました！

今日も視界良好 インターン編

⑤ 「ルールを統一する重要性」 インターン生 瀧澤 佳樹

フラッグシップ経営で働いて気づいたことがあります。それはファイル名を「ファイル名+日付」やファイルの資料をインデックスで見やすく統一することです。具体的にはワードのファイル名を「●●計画書 20230724」にし、誰が見ても一目瞭然にわかるように、統一することです。

今思えば、大学の研究で先輩のファイルを探す時に、どのファイルが一番新しいのか分からないことが多く、時間がかかっていました。これは統一化がなっておらず、見にくくなっているからです。また、こういった出来事は他人だけでなく、自分にも当てはまっていることに気がきました。過去の自分が作成した、似たファイル名に混乱しながら探しているときがあります。こういった、探している時間は無駄で、過去の自分がきちんとファイル整理をしなかった結果、招いたことだと考えています。この積み重ねが人生全体で見たときに莫大な無駄な時間になっていると思います。これからは、自分や他の人の無駄な時間を無くせるように行動すると同時に、どうしたら無駄な時間は無くせるかを考えて作業を進めていきたいと思っています！

⑥ 「夏は過去を思い出す起爆剤」 インターン生 伊藤 悦子

最近とても暑いですね。こんにちはは学生インターンの伊藤です。皆様いかがお過ごしでしょうか。私はセミの鳴き声で目が覚める毎日です。最近、京都と大阪でセミの鳴き声が若干違うことに気が付きました。おそらく、温度や湿度でセミの適切な生存環境が種類ごとに異なるからでしょう。クマゼミはもともと九州にのみ生息するセミでしたが、今では温度が上昇したため日本全国で見かけますね。暑いのは苦手ですがクマゼミは好きなので、異常気象に少し感謝しています。

小学生の頃、虫は最初気持ち悪いと思い苦手でした。しかし、拡大してみると不思議な幾何学模様や、その生物でしか見れない色を発見し、そこから大好きになったのを覚えています。そうして、幼いころより昆虫の面白さに気が付き、いつか昆虫博士になる！と本気で思っていました。そこから紆余曲折あり、来年度コンサルタントとして就職いたします。

私の人生の目標は楽しく、健康に生きることです。自分が楽しい人生を送れるか考えると、社会人になることに対してとても不安です。もし、仕事がつらく、苦しいものと感じてしまったらどうしよう。など漠然と考えます。もし、物事に取り組むことがしんどくなったら、小学生のあの頃昆虫の見方が180度変化したように、一見難しいこと、大変に思えるものに対して自分に合った画素数でその物事をとらえ、自分が楽しさを見出せる解像度で取り組んでいきたいです。

セミの鳴き声を聞くと小学生の頃の夏休みを思い出します。現在大学4回生の夏、社会人になる気持ちと小学生の頃の思い出が揺らぎ重ねあわせ状態になっています。

⑦ 「インターン生同士で反省会」 インターン生 野稻 大樹

本日はインターン生同士で働き始めてからの3か月間の反省会をしました。今日まで働いて感じた自分たちの課題やそれらに対する解決策などについてはもちろんですが、インターン生から感じる会社としての課題だったり、それに向けた改善案だったり、個人についてだけではなく会社という大きな枠組みを改めて捉えなおし、深く考え議論をすることができたとてもいい機会になりました。

今回の反省会や普段の仕事を通して、他のインターン生が日ごろからどれだけ考えて業務をこなしているか、どれだけ勉強してきたのかを知り、尊敬の念を抱くとともに、よきライバルに出会えたなあと心の底から思いました。

⑧ 「目で確かめることの大切さ」 インターン生 小甲 智也

インターン生として働きだしてから4か月が経ち、業務にも徐々に慣れてきました。そんな中、事業計画書などの作成にあたり実際にどのような生産ラインで製品が作られているのかがわからず、資料作成に難航することがありました。

その際に、事業者様の現地に赴き、ヒアリングを行わせていただく機会があり、工場の生産ラインやこういった製品が作られているのかを視察させていただきました。そこで生産ラインを直接見ることで、どのような課題があるのかを具体的に確認することができ、より詳細な資料を作ることができました。

また、通っている大学の教室に視察した工場の製品が使われているのを、偶然発見する機会がありました。この製品がどのように労力をかけて製造され、私たちの生活に役立っているのかが現地調査での経験から、モノへのありがたみを感じる機会になりました。今後も現地見学を通して、事業者様の課題や製品への感謝を感じる機会にしたいと考えています。



発行元：株式会社フラッグシップ経営 経営革新等認定支援機関

大阪本社：〒541-0043 大阪市中央区高麗橋3丁目2-7 ORIX 高麗橋ビル5階

和歌山支店：〒640-8392 和歌山県和歌山市中之島1518 中之島801ビル12階

TEL：0120-34-8776

FAX：06-7635-8214

MAIL：info@flagship-keiei.co.jp

URL：www.flagship-keiei.co.jp

